「手作りおもちゃ」コーナーに参加して

白梅学園大学子ども学科
卒業生
井上　裕子

「人々が助け合い・共に育ちあう地域」。これが私の理想の地域像であり、施設設立に携わる時意識したことでした。

私がこの思いを持ったのには、自身が子どもの頃、地域で育った経験によります。

私の育った地域では、大人たちが買い物に行く間、子どもを預けたり、ついでに近所の買い物もしたりするような助け合いの関係がありました。子どもだった私も異年齢の友達から遊びを教わったり教えたり出来ました。

自分自身が肌で感じた地域間での助け合い・育ち合いのよさを他者にも伝えたい、その思いを持っていました。

縁あって、私は学生でありながら東村山市子育て総合支援センターの設立過程に携わることが出来、遊びコーナーへの提案をすることになりました。

私は、この施設設立過程に関われたことで自分の人生はガラッと変化したと感じます。それはこの活動に参加して得た財産「人々との出会い」によってです。学生としてこの活動に参加したことで、何を見て学んだかをお伝えしたいと思います。

私が「五感感覚・感性を育てるおもちゃによる親子の共育ち」と提案した遊びコーナーの手作りおもちゃは、白梅保育園の大山美和子園長の強力な支援と助言によって実現出来たといえます。現在も、遊びコーナーの手作りおもちゃは市民に大変評判で、「おもちゃのアイディアを家庭に持ち帰れる」と評価されていますが、これは大山先生のお力添えなしには出来なかったと思っています。

私は、現代人に五感感覚や感性の弱まりを感じていたことから、親子共に五感感覚を育てる場を提案しました。テーマを明確にして、おもちゃを自作していましたが、学生だけでは発達まで考慮したおもちゃを揃えることは難しいと感じておりました。そう思っていた頃、大山先生にお会いすることが出来ました。先生からは環境構成や子どもの発達・遊びだけでなく、教育や子育て支援の本質についても教わりました。「教えるのが私の仕事です」とおっしゃられ、何度でも丁寧に教えてくださる大山先生の姿勢、穏やかでさりげないけれど、芯にある先生の情熱に触れ、私も大山先生のようになりたいと思うようになりました。大山先生から学んだことは、保育の学びだけではなく、人としての在り方でもありました。

また、「夢を持つ大人」に出会えたことは非常に重要な経験だったと思います。これは施設を作る過程で夢を語り、それを懸命に実現しようとする大人の姿です。私はこれまで戦う大人にはほとんど出会ったことがなかったと思います。

この時、簡単に夢を諦めず戦い続ける大人の姿を見て、私は心が揺さぶられる思いをしました。「この大人たちを尊敬するし、一緒に活動がしたい！」。私が１０００個以上のおもちゃ作ったのも、「おもちゃ制作活動」を展開させたのもこの大人の姿が原動力になっていたと断言できます。

「おもちゃ制作活動」とは、学生・市民・専門家が簡単なおもちゃを一緒に作る活動を設定することで人々に相互作用が生じ、学び合いや育ち合いが生まれるのではないかと考え、私が研究したもので、２００８年８月に市民（子育て中の親子や地域の人）・学生・センター職員がおもちゃを一緒に作る活動を実施しました。参加者は学びや息抜き、人との交流や社会貢献など、各人の立場や心情によって意味や価値を見出していました。

私自身も、この活動をしていなければ出会えなかったであろう、20歳も40歳も年齢の離れた人たちと今でも繋がりを持つことが出来ています。

この活動に参加したことで得た多くの人との出会いや学びは、自分をつくることに繋がりました。

新しいことに挑戦することが苦手だった私に、教授

はサポートしながら私を挑戦させて下さいました。この経験から私は今、新しいことに自分から挑戦出来るようになっています。それは臆病でいるより、出て行くことで広がる人々との出会いや学びなど、広がる世界の面白さを知ったからです。

私の世界を広げ、夢や尊敬の意を与えてくれた大人たちに感謝すると共に、これからも後輩たちが本学で充実した学びを経験出来ることを願っています。